

JaNet

January 2016 No. 76

季刊ジャネット

Ja-Netは Japanese Network の略です。「にほんご」を通して編集室と読者の皆様を結ぶ情報誌にしたいと考えています。

Contents 目次

2016年1月25日発行

- View from the Other Side 3
マーティン・ローリンさん(スイス)
- あちこち日本語ご紹介(国内編)..... 4
東京都 板橋区
- あちこち日本語ご紹介(海外編)..... 5
イタリア フィレンツェ
- 教材紹介 6
『みんなの日本語 初級1 第2版 教え方の手引き』
『新完全マスター単語 日本語能力試験N3 重要1800語』
『日本語文法演習 時間を表す表現一テンズ・アスペクト一
改訂版一』
- なんでも情報BOX..... 8

スリーイーネットワーク

巻頭
寄稿

ネパールに緑と女性たちの輝きを

—Love Green Nepal の取り組み—



アミーラ・ダリ

Love Green Nepal 事務局長

日本との出会い

39年前に初めて渡った外国が日本でした。それは留学のため、日本語の勉強が一番の目的でした。現在のような情報社会とは違いましたから、事前に情報を全く得られないまま、まるで目をつぶっているような感じで日本にきました。そのおかげでしょうか、若い自分には、見るもの、聞くもの全てが新鮮で興味深いものでした。振り返ってみると、留学中の私は日本社会にどっぷりと浸かっていました。いつの間にか日本を外国とは感じなくなり、今では日本へ「帰る」と言ってしまうくらいです。

日本への留学の貴重なきっかけを与えて下さったのは聖心女子大学教授でいらした故松本滋先生です。松本先生はネパールのビレンドラ国王が学生時代に東京大学に留学された際に親交を深められ、その後、国賓として二度ネパールにいらっしゃいました。当時のネパールの様子をご覧になった松本先生は、人材育成に力を貸したいと考え、ネパールで日本語を学んでいた私を日本に招いて下さったのでした。松本先生には今でも感謝しています。

天理大学で一年間、なんとか日本語の勉

強を終え、上智大学国際部(当時)の修士課程に入学しました。そこから、私と日本語との本当の戦いが始まりました。経営、経理の専門書、資料を読み解き、意味を調べるまで、どのようにたどり着けるか苦労の毎日でした。こんなに難しいことなら留学しなければよかった、と思うこともしばしばありました。しかし、努力を続ける中で日本語が鮮やかにわかるようになった瞬間が訪れました。その日のことは昨日のようにはっきりと覚えています。

その後、AOTS(海外技術者研修協会、現HIDA)の技術研修の面接に合格し、三井情報開発株式会社でソフトウェア開発などを学びました。

1982年にネパールに戻り、6年ぶりの祖国を新鮮に感じました。「やりたいこと」と言うより「できること」がここには山ほどあると思い、NGO団体Love Green Nepalを設立しました。

Love Green Nepal の活動

NGOではネパールの緑化を目指し、仲間8人と植林を中心とした活動を始めました。村の毎日の生活に木は欠かせません。現在

でも多くの家庭で薪が煮炊きの燃料として使われています。そのため、村人の間に根付く、木は切るためにあるものだという考えはそう簡単には変えられず、森林伐採が環境破壊につながるということも、なかなか理解してもらうことができませんでした。

そこで、私たちは大人ではなく、子供たちに木の大切さを学んでもらえば、村の啓蒙につながるのではないかと考え、学校で植林の必要性を重点的に教え始めました。そして、ネパールの女子教育の現状にぶつかったのです。当時、ネパールの農村では女の子は労働力として考えられ、十分な教育を受けることができないことがありました。女子教育の普及が最優先だと痛感した私は、経済的な理由で学校へ行けない女子のために奨学金制度を導入し、女子学生が通学できる環境を整えるために公立学校にトイレのある校舎を建設しました。どうして校舎の整備が必要になるかというと、トイレがないために学校に通えない女子が少なくなかったからです。こうして、女子教育の普及にもだんだんと力を入れていくことになりました。

先を案じず、できることを続けていこうと



地域の村人による植林活動



Prakriti Breadを立ち上げパン職人として働く女性たち。Prakritiとはネパール語で「自然」を意味する

やっているうちに、Love Green Nepal の活動は植林、バイオガスを使った調理設備の提供、校舎建設、持続性のある農業、女子教育普及への協力など多方面に広がってきました。現在では、Love Green Nepal のサポートを受けた女性たちが中心となって、女子教育、エンパワーメントなどの事業をうまく運営してくれています。私たちの活動を支援してくれている日本の方々とは触れ合う中で、日本語の勉強をしたい、もっと日本のことを学びたいと申し出る女子学生も増えてきました。私としては、ぜひ聞きたかった言葉です。

日本のパン工房での研修

Love Green Nepal の奨学生たちに安心して職についてもらうための取り組みとして、2013年に6名の奨学生を日本のパン工房に派遣し、2か月間の研修を行いました。私は以前から、日本の菓子パンをネパールで売れば流行るだろうと思っていました。奨学生の女性たちが菓子パン造りの技術を身につけ、パン職人兼経営者となれば、成功事例となるでしょうし、また後輩を育ててくれることで波及効果があると考えました。日本での研修を希望する23名の女性たちの意思確認と親の了承を取り付けるまで、時間をかけ心の準備をもらった結果、最終的に6名が日本へ渡りました。研修は私たちの女子教育活動をずっと支援して下さっていた方の紹介で、福島のパン工房が引き受けてくださいました。

派遣前の3か月間、日本語を集中的に勉強させ、研修に送りだしたのですが、思いも寄らない現実に向き合うことになりました。実は、研修生らはネパールの地方出身で、首都カトマンズの生活すら経験したことの

ないまま、いきなり日本での研修が始まり、異文化ショックを受けてしまったのです。慣れない長時間の肉体労働に研修に、トイレの掃除があることなどで、ストレスを抱え、倒れてしまった者もいたようです。

ある朝、日本から「もう少し楽なスケジュールで研修させてもらえないか頼んで欲しい。」と電話がかかってきました。私は「ダメ、最初はきつい方がいい。倒れても病院があるから問題ない。」と、今思えば残酷な返事をして電話を切りました。言葉だけではなく、文化やライフスタイル、価値観の違いがもたらす影響に思いが至らなかったことに責任を感じ、研修期間中は心配が絶えませんでした。しかし、研修生たちは何とか困難を乗り越え、パン作りのノウハウを習得し、無事に帰って来ました。彼女らの明るい顔を見た時、私は自分が世界一幸せだと感じました。日本で研修生を引き受けて下さったパン工房、面倒を見て下さった会社のご協力なくしては実現不可能なプロジェクトでした。

パン作りを通して

その後、研修生たちは「Prakriti Bread」という会社を立ち上げました。現在は小さな工場を一つと小さな店を2軒運営し、経営者として、パン職人として悪戦苦闘しています。生産計画、営業など、これから覚えなければならないこともあります。工場でのパン作りと店番を皆で交代しながら、大量受注発送まで請け負うなど、忙しく働いています。

彼女たちの夢は、自分たちの出身村の近くで、カフェを併設したパン屋を開くことだそうです。また、村の若者にパン作りの技術を教え、若者の自立支援に役立ちたい、

日本と同じくらい美味しいパンをネパールに広めることが夢だと語ってくれています。美味しいという評判がたち、パンが少しずつ売れ始めたあたりから、彼女たちは一段と明るくなり、自信がついたように感じます。

昨年4月25日にネパールは大震災に見舞われました。地震で首都カトマンズは大きな被害を受け、彼女たちの出身地も大変な被害にあいました。しかし彼女たちは被災者に焼きたてのパンを届けたり、小学校に給食用の菓子パンを提供したり、元氣や喜びを分け合っています。側から見ている私は「倒れても病院がある」ときつく言った言葉が効いたと感じ、ちょっぴり嬉しく思い始めました。復興はなかなか進んでいないのが現状ですが、力を合わせて立ち上がろうと人々の努力は続いています。前向きに明るく、少しずつ進んでいけたらと思っています。

今年はネパールと日本の国交樹立60周年の年であり、またLove Green Nepalの創立25周年にもあたります。山あり谷ありの25年でしたが、すくすくと成長した木、たくさんの成人した娘達が常に私にエネルギーを与えてくれています。社会を改善する鍵を握っている現場の女性たちの声を聞きながら、これからの活動をどう展開するかを考えていきたいと思っています。

アミーラ・ダリ

NGO 団体 Love Green Nepal 事務局長、三朋インターナショナル株式会社ネパール事務所所長。1955年カトマンズ生まれ。1975年国立トリブバン大学大学院修了。1976年来日、天理大学で日本語を学ぶ。1980年上智大学大学院国際経営学修士課程修了。1980年から2年間、AOTSの企業研修を受ける。1982年帰国。三朋インターナショナル株式会社でODAのプロジェクト開発に関わる。1991年 NGO 団体 Love Green Nepal を設立。2009年 AOTS 社会貢献大賞を受賞。

このコラムでは、学習者の視点での話題をお届けします

本を通じて、ヨーロッパに日本を伝えたい

— スイスで日本語専門書店を経営しているローリンさんに聞きました。

— ローリンさんが日本に興味を持ったきっかけは何ですか。

1995年、英語を勉強するため、カナダのバンクーバーに留学しました。その時、多くの日本人と行動をともにし、福岡出身の妻と知り合い、結婚しました。

1999年にスイス商工会議所から奨学金をもらい、来日しました。福岡YMCAで9か月間日本語を勉強しました。妻の実家が久留米市なので、久留米から福岡の学校まで通いました。

久留米は自然が豊かで、生活は非常に楽しかったです。

— 日本語の専門書店を開こうと思ったのは、どうしてですか。

家族と一緒にスイスに戻った後、商社で働きながら、日本語の勉強を続けました。しかし、スイスでは日本語学習のための資料を入手することが難しいと気がつきました。また日本語を勉強する仲間たちからも、同じような意見があり、2000年にRoellin Booksをスタートしました。

初めは大変でしたが、もともと商社で働いていたので、その経験を元に、少しずつ日本の出版社と取引を始めました。年に2回ほど出張で日本に来て、取引先で商談をしています。

開業以来、Roellin Booksは年間1万冊以上の本を販売してきました。在庫は5千冊を超えています。Roellin Booksは日本語の本を中心に、日本で出版されているどのような本でも提供できます。

— Roellin Booksのお客様はどのような方がいらっしゃいますか。

主にスイス、ドイツ、フランス、イタリア、イギリス、スカンジナビアの国々に本を販売しています。ヨーロッパで日本語を勉強している人は大学で学ぶ人の他に、地域の市民



マーティン・ローリン

スイス・ツーク州メンツィンゲン村出身。日本人の妻と長男(11歳)、次男(7歳)の4人家族。1999年初来日。2000年日本語専門書店Roellin Booksを設立。2005年スリーエーネットワーク欧州大陸販売代理店(イギリス、アイルランドを除く)となる。2013年コクヨのスイス販売代理店となる。2011年MetSuisse(www.metsuisse.com)設立。設立年にISO9001とISO13485認証獲得。

講座や語学学校で学ぶ人がいます。このような人たちは若い人から年配の方まで、幅広く、また日本のマンガやアニメといったポップカルチャーや日本文化に興味をもって、趣味として、勉強を始める人が多いです。私は大学や市民講座を回って、いろいろな本を紹介しています。

それから、ヨーロッパのスーパーにコクヨの文房具を卸しています。日本の文房具は質がいいですし、特に、針のいらないステープラー「ハリナックス」はとても人気があります。

また、2011年にはチタンなどの特殊金属をEUと日本の間で取引する会社MetSuisseを立ち上げました。お客様は主に医療関係の方で、病院などに商品を卸しています。書店の仕事とチタンの会社の仕事は全く異

なりませんが、商品を販売し、お客様のもとに届けるという点では同じです。

— 毎日お仕事で忙しそうですが、お休みの日は何をされていますか。

趣味はランニングです。ドバイマラソンには2回出場しました。久留米に住んでいた頃は、熊本の阿蘇山まで自転車で旅行したことがあります。途中、町の人々と話したりしながら、1日かけていきました。

スイス人ですから、もちろん山登りも好きです。富士山には一番下の登山口から上りました。頂上で見た朝日がとてもきれいだったのを覚えています。

— 将来、会社をどのようにしていきたいですか。

最近インターネットの普及で、世界がどんどん狭く感じられるようになってきました。これを機会に、より多くの人が日本や日本語といった他の文化や他の言語を勉強するようになるといいですね。

— 昨年、日本とスイスは国交樹立150周年を迎えました。貿易を通じて、これから日本とスイスの関係をますます活性化したいです。そして、今まで以上に日本の本をヨーロッパのお客様に紹介したいと考えています。

Roellin Booksからお知らせ

取り扱い書籍はRoellin Booksウェブサイトでご覧いただけます。書籍購入をご希望の方はmartin.roellin@roellin-books.comまでご連絡ください。

Roellin Books GmbH

General-Guisan-Str. 36

6300 Zug

Switzerland

TEL: +41 76 370 02 90

FAX: +41 41 710 00 35

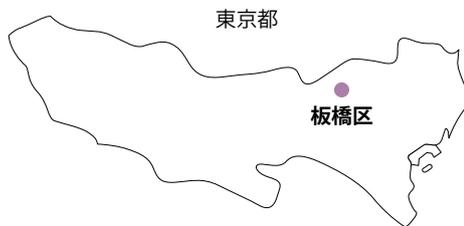
URL: <http://www.roellin-books.com/>



日本語ご紹介

国内編

東京都 板橋区



留学生と日本人学生がともに学び、教え合う授業

大東文化大学外国語学部日本語学科

助教 高野愛子

授業の概要

大東文化大学外国語学部日本語学科では1学年定員60名が外国語としての日本語・日本語教育学・日本文化を学んでいます。約1/3が留学生で、授業は大きく基礎教育科目と専門教育科目に分かれており、留学生、日本人学生3・4年生を対象とした実践的な共修の専門選択演習科目として、「日本語3A(読む・書く)」「日本語3B(聞く・話す)」「日本語3C(教える・学ぶ)」があります。

ここでは「日本語3C(教える・学ぶ)」の授業についてご紹介します。この授業では留学生、日本人学生が日本語教育・日本語学習者をめぐる日本語・日本について、客観的に考え、説明できるようになり、それぞれの視点を変えてお互いの立場や考え方が理解できるようになることを目標としています。年度によって履修人数や留学生と日本人学生の割合は異なりますが、今年度は留学生13名、日本人学生12名と約半々の構成となっています。

日本語で日本語や日本について「教える・学ぶ」というと、日本人学生が留学生に「教える」、留学生が日本人学生から「学ぶ」という関係や方向性をまず想像されるかもしれませんが、ところが、このクラスでは、日本語学習者である留学生たちが日本語母語話者である日本人学生に「教える」、つまり「気づかせてくれる」ことのほうが多いのです。そして、留学生にとっては、そのような日本人学生の「気づき」を知り、自身を振り返ることが「学び」となっています。

授業では『とりあえず日本語で』(荒川洋平著・スリーエーネットワーク刊)を読み進めながら、留学生と日本人学生の混成グループによる討論を中心としています。『とりあ

えず日本語で』には、様々な国籍・立場の外国人がホームステイ先や就職先で、日本人と日本語でやりとりする場面が描かれ、そこで生じる問題や解法が紹介されています。ストーリー仕立てになっていることから、学生たちにとっても理解しやすく、解説があり専門的な知識も学べるため、教材として選びました。

学生たちの声

授業では、それぞれのストーリーをクラス全体やグループごとに読み(役を割りふって音読)、その後、何が問題だったのか、どうすればよかったのか、毎週異なるメンバー構成でグループごとに話し合っています。授業の最後に毎回書いてもらっているコメントを読むと、そのときの率直な感想とどう理解しているかが伝わってきて、私もまた彼らから教えられることが多くあります。

『とりあえず日本語で』で日本人が外国人と対応するときに陥りがちなパターンとして挙げられている「5つの型」のうち、2つの型を学んだ際の学生たちの反応を例に紹介します。

「子ども扱い型」では、ほめすぎや親切心が裏目に出ることについて描かれています。留学生からは「僕もホームステイのときにお箸ではなくてフォークが出された」「この気持ちができる。日本語学校のとき、授業で先生が子どもを教えるようにすることは自分も経験した」、日本人学生からは「良いと思っていることでも相手にとっては迷惑に感じることもあると知って、お互いの理解が必要不可欠だと思う」という声が聞かれました。

「言い換え失敗型」は、日本語の説明で適切な言い換えができず失敗するパターンです。実践として、辞書にないようなことばを説明したり、「和語—漢語—カタカナ語」の



グループで協力しながらタスクを行う

言い換え例をできるだけ多く挙げるタスクをグループ対抗で行いました。ことばをわかりやすく言い換えることについて、日本人からは「こんなに難しいとは思わなかった。意識していないからだと思った」と母語話者ゆえの反応がありました。留学生からは「難しい単語を初級の日本語学習者に教えるのはとても難しいということを実際に感じた。技術が必要なことだと思う」というような感想がありました。

対話を通した学びの可能性

開講当初は「知らなかったことに気づいた」「驚いた」という反応だったが、対話を重ねるごとに「納得した」「共感した」「理解した」というような言葉が双方から多く聞かれるようになり、問題が起きた際には「寛容になる」「受け入れる」ことが大切だという意見が出て、日本語や日本への関心もますます深まってきたようです。

さらに、留学生からは「今まで日本で不思議だと思ったことが多いが、納得した」「国籍とは関係なく、接する相手の性格を考え、納得できる方法で交流したい」、日本人学生からは「コミュニケーションは経験を積むことが大切だと思った。自分からそのような場への参加、またそういった機会を設けることが今の日本には必要なことだと思った」というような頼もしい声が聞かれました。

お互いの立場に立って、日本語や日本について考えられている学生たちの姿を目の当たりにし、やりがいを感じる瞬間が毎年訪れています。彼らが社会に出て、さらに周囲に伝えてくれることを期待しています。



日本語ご紹介

海外編

イタリア フィレンツェ



ルネサンスの街、フィレンツェの日本語学校から

スクオーラ・トスカーナ

講師 今井弘美

イタリアと日本語教育

澄み渡った地中海の空、四季折々に色を変え、田園や山々の風景、そして、遙か昔から変わらず静かに時を刻む荘厳な歴史的建造物。毎年多くの観光客がこの国を訪れ、その美しさに魅了されています。

産業も発達しており、ファッション、インテリアなどの業界では、その洗練されたデザインと高いクオリティーが世界各地で高く評価されています。また、世界有数のワイン生産国であるなど、農業もこの国の主要な産業となっています。その一方で、若年層の失業率が40パーセントを超えるという深刻な問題も抱えています。職を求め国外に出る知識階級も増加していて、政府は若者の安定雇用を優先課題の一つとしています。

イタリアにはナポリ東洋大学やローマ大学をはじめとする日本研究ができる高等教育機関が古くからあります。中等教育では、第3言語として日本語が選択できる高校が北イタリアを中心にあり、今後も日本語教育を取り入れる高校は増えていくと予想されています。一般の語学学校に関しても、日本語コースを設けるところが近年多く見られます。

日本語への関心

高等教育機関はともかく、一般の語学学校においては、かつては仕事に役立てるために日本語を学ぶ人が大半だったようです。それはイタリアが世界屈指の観光国で、毎年日本からも多くの人たちが訪れていること、また、産業製品の貿易などで日本と深く関わりがあることなどが背景にあるからでしょう。

しかし、今は日本のポップカルチャーをきっかけに日本語に興味を抱く若い学習者が増



日本のポップカルチャーをきっかけに日本語を学び始める学習者も多い

えています。日本の伝統文化が好きで日本語学習を始める人もいます。几帳面で礼儀正しい日本人を見て、日本という国、そして、日本人の国民性にイタリアにはないものを見出し、強い好奇心から日本語学習を始めるケースもあるようです。このように現在の日本語学習の動機は多岐に渡っています。

スクオーラ・トスカーナ

イタリア中部に位置するトスカーナ州の州都フィレンツェは、人口約36万人の都市です。旧市街は、町そのものが美術館と言われているように、そこに一歩足を踏み入れると、ルネサンス時代にタイムスリップしたかのような錯覚を受けるほどです。

スクオーラ・トスカーナは、その一角、サンタ・クローチェ教会の斜向かいにある古い石造りの建物の中にあります。もともとは外国人のために設立されたイタリア語学校ですが、2009年に本格的に日本語コースも立ち上げられ、それ以来、週1回90分の夜間総合コースが常時開講されています。現在は初級から中級まで5レベルあるクラスを、日本人講師4名で担当しています。受講生は10代から50代と幅広く、学習目的も様々です。

授業では『みんなの日本語』を主教材とし、話す・聞く・読む・書くの四技能が総合的に学べるようにプログラムが組まれています。

しかし、1週間に1回の授業で、外国語を身につけるのは容易ではありません。そこで、自宅で無理なく予習・復習ができる教材を紹介するなど、受講生が自発的に学習に取り組めるよう講師は手助けをしています。

また、「多読コース」を併設し参加を呼びかけたり、日本人留学生との言語交換会を定期的で開催したりするなど、学習者が高いモチベーションを維持できるような工夫もしています。特に言語交換会は、生の日本語が聞け、教室で学んだことを即実践できる場とあって、毎回多くの学習者が参加を希望します。

総合コースのほかには、プライベートレッスン、会話コース、日本語能力試験対策コースなどがあります。夏季には昼間の集中コースが開講され、主にアニメ、ゲーム、柔道、空手など、趣味や習い事を通じて日本を身近に感じている高校生が集まります。このコースでは語学だけでなく、映画、書道、折り紙などの日本文化セミナーも受けられるため、毎回人気です。

意外にもシャイな人が多いイタリア人。しかし、一度心を開けば、底抜けに明るく、授業中は冗談も飛び交い、笑い声が絶えません。スクオーラ・トスカーナでは、今日のような様々なニーズに応えつつ、学習者が日本や日本語に興味を持ち続け、より楽しく効率的に日本語が学べるよう常に努力しています。

みんなの日本語 初級 I 第 2 版 教え方の手引き

スリーエーネットワーク 編著

B5判 本文 250頁(予定) CD-ROM1枚付 2,800円+税 4月発売予定

**Now
Printing**

資料・イラストが CD-ROM に収録され、より使いやすく

『みんなの日本語』執筆協力者 田中よね

教科書は、先生が百人いれば、百通りの使い方があります。『みんなの日本語 初級』もいろいろな使い方がされていると思います。本書は、『みんなの日本語 初級 I 第 2 版』を使って教える人のために、最も基本的な使い方をまとめました。第 1 部、第 2 部、および付属 CD-ROM からなり、第 1 部は全体についての解説、第 2 部は各課の具体的な進め方を紹介しています。

第 1 部 『みんなの日本語 初級 I 第 2 版』について

『みんなの日本語 初級 I 第 2 版』は、その基本方針として、授業は媒介語を使わずに、既習の語彙と文型で行うこととしています。

授業の流れは大まかに「ことば→文の型→文単位の練習→談話練習→会話→問題」とし、導入から練習までは項目ごとに進め、練習は本を閉じて行うことを原則とします。

課によって細かい点は異なりますが、全課に共通する進め方として、語彙・文型の導入、練習・会話のやり方などを第 1 部に紹介しています。この基本的な進め方をしっかり押さえたうえで、各課の教案を作ります。その際、第 2 部の「各課の教え方」が参考になります。

第 2 部 各課の教え方

第 4 課の一部を下に示します。

学習目標 各課の 1 ページ目に「できるようになること」と「学習すること」が掲げられています。その課を学んでできるようになることと文型・例文・練習 ABC の流れを捉えます。

導入と導入例 導入には、教師がクラスでの導入を考える際のヒントが書いてあります。導入例はできるだけ無色透明、万人向けのものにしました。ヒントと導入例を参考に、アイデアいっぱいの楽しい導入を考え

てください。

板書 板書は、現場ではさまざまな工夫(磁石付きカードやパワーポイントなどの使用)が凝らされているでしょう。ここでは多くの現場で取り入れやすい手書きのスタイルを紹介しています。

練習 練習の意図、方法、発展させる方法について書いてあります。練習 C ではやりとりの前後に会話の切り出しや切り上げを加えたり、やりとりの後に続く会話を考えて作ってみるなどの発展的な練習も提案されています。

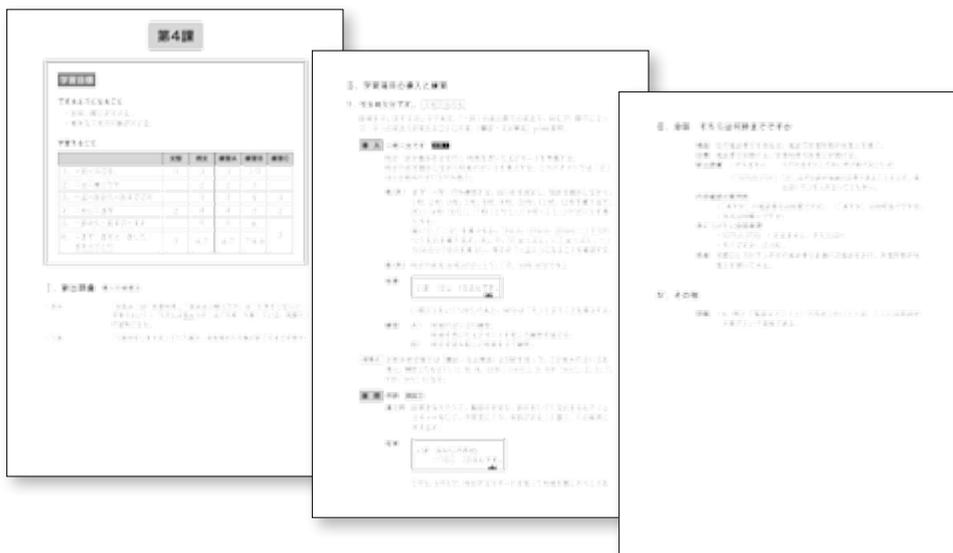
留意点 多くの学習者がつまづいたり、同じ間違いをしったりする点、教師が出遭うであろう疑問点などを解説しています。

会話 練習 ABC とは違った、会話の授業の進め方、会話にしかない表現を指導する方法を提示しています。また、実践につながる「発展」も掲載しています。

付属 CD-ROM

「学習項目と語彙のリスト」「動詞のフォームの作り方の表」「練習 C・会話のイラスト」などを収録する予定です。

学習者によって背景、個性が異なるように、学習者のこれまでに培ってきた学習法、受けた授業も異なるでしょう。教師は常に導入や練習方法など指導の工夫が求められます。学習者に応じた授業を組み立てるための参考書として、本書が役に立てばうれしく思います。



新完全マスター単語 日本語能力試験 N3 重要 1800 語

石井怜子 監修

A5 変型判 本文 258 頁(予定) 1,600 円+税 4 月発売予定

Now
Printing

初級が終わったら、始めよう！ 毎日の単語学習

麗澤大学 石井怜子

文法が骨なら、単語は血や筋肉。初級で学んだ文型・文法を基にして、中級では多様な表現で肉付けをし、豊かな言語生活を営む力を伸ばしていきます。そこでは、語彙力が欠かせません。

単語は教科書や読解、聴解の授業で勉強しているから大丈夫？ いいえ、学習者は日々、もっとたくさん単語を知っていたらなあ、単語学習を強く求めています。教科書等に出てくる単語を学ぶだけでは、第一に量的に足りません。第二に、必要な単語が抜けていたりして、バランスよく学べません。

毎日少しの時間を単語学習に使って、知っている単語の一つでも増やしてほしい。本書にはこのような願いが込められています。

《教材の特長》

- ・持ち歩きに便利な A5 のコンパクトサイズで、いつでもどこでも気軽に開いて学習できます。
- ・中級前半に必要な 1800 語が、さまざまな資料から厳選してあります。それぞれの語には英語・ベトナム語訳と音声が付いていて、自習もできます。
- ・覚えやすさに配慮して、名詞(1326 語)・動詞(254 語)・形容詞(88 語)や副詞その他(132 語)に分けて単語を提示しています。学習者が必要なところを選んで学習することもできます。
- ・単語の例文は、文が表す状況が具体的にイメージできるものを心がけ、単語の理解と記憶を助けるようにしてあります。

・約 200 語ごとに、学習単語の一部が入った読解の文章があります。実際の文章での使われ方が分かると同時に、学習成果の確認ができます。また、音声が付いているので、聞いて分かるかの確認もできます。

・N3 レベルに必要な接辞とその使用例を載せています。また、各単語にはよく使われる複合語や派生語などの関連語が付いています。これによって、さらに単語の数を増やせます。

名詞を 1 日 20 語、動詞他を 1 日 15 語学習するとすれば、学習期間は約 3 か月です。語彙力は短期間では伸ばせません。コツコツと毎日繰り返して単語を学ぶことが、中上級レベルの日本語力につながります。合言葉は「初級が終わったら、始めよう!」です。

日本語文法演習 時間を表す表現—テンス・アスペクト—改訂版—

庵 功雄 清水佳子 著

B5 判 本文 80 頁(予定) 1,300 円+税 2 月発売予定

Now
Printing

自信を持って、使い分けができるように

一橋大学 教授 庵 功雄

「する、した、している、していた」は初級で学習する項目ですが、誤用が多いものでもあります。最新の研究によると、これらの形式は日本語で論文を書くレベルの上級学習者においても最も誤用が多いものであることがわかっています。

本書では、用法を段階的に丁寧に見ていくことを通して、これらを確実に使いこなせることを目指しています。例えば、部屋に入ってガラスのコップの破片が目に入ったとき、日本語母語話者は「あっ、コップが割れて(い)る。」と言うのに対し、学習者は「あっ、コップが割れた。」と言うことが多いのですが、その理由を学習者の腑に落ちるように説明しています。それによって、スカー

トの試着時にファスナーの不具合を見つけた場合、「ファスナーが壊れています。」と言えば問題にならないが「ファスナーが壊れました。」と言うと責任を取らされるのはなぜか、といったことがわかるようになります。誤用が多い「雨が降った。」と「雨が降っていた。」のようなタ形とテイタ形の違いについても、学習者が自信を持って使い分けられる記述をしています。

それ以外の形式も詳しく取り上げています。例えば、「してしまう」でよく問題になる「後悔・残念」と「完了」の違いについても、「完了」になる場合以外は「後悔・残念」になるというとらえ方をすることによって、適切な産出につながるように工夫していま

す。

初版を出したのは 13 年前ですが、その後、この分野に関するかなりの数の重要な研究が提出されています。そうした研究成果に、筆者自身の教育実践で得られた知見を加えて、再構成したのが今回の改訂版です。

本書は、学習者への説明を目的としたものですが、時間に関する表現(テンス・アスペクト)を分析するのに必要な考え方を丁寧に説明していますので、学習者の方だけでなく、先生方、さらに、日本語学や、第二言語習得など日本語教育学を学んでいる大学院生の方などにも参考になる内容になっています。



なんでも情報 BOX

Books ほん

すべて本体価格です

日本語文法演習 時間を表す表現一テンズ・アスペクトー改訂版ー	2月発行予定	1,300円
みんなの日本語 中級II 翻訳・文法解説 ベトナム語版	2月発行予定	1,800円
みんなの日本語 初級I 第2版 教え方の手引き	4月発行予定	2,800円
新完全マスター単語 日本語能力試験 N3 重要 1800語	4月発行予定	1,600円

Seminars セミナー

『中級へ行こう 日本語の文型と表現55 第2版』

改訂のポイントと初中級レベルの授業づくり

講師：平井悦子、三輪さち子

東京

日時：2月27日(土) 14:00-16:00

(受付開始 13:30)

会場：TKP 麹町駅前会議室ホール 8A

(東京都千代田区麹町 3-2 麹町共同ビル 8階)

定員：80名(先着順。定員になり次第締め切ります。)

大阪

日時：3月19日(土) 14:00-16:00

(受付開始 13:30)

会場：愛日会館

(大阪府大阪市中央区本町 4-7-11)

定員：80名(先着順。定員になり次第締め切ります。)

仙台

日時：4月2日(土) 14:00-16:00

(受付開始 13:30)

会場：TKP 仙台カンファレンスセンターホール 2A

(仙台市青葉区花京院 1-2-3 ソララガーデン・オフィス内)

定員：70名(先着順。定員になり次第締め切ります。)

共催：丸善仙台アエル店

*参加者には丸善仙台アエル店の割引チケットを当日お渡しする予定です。

全会場共通

参加費：無料

問合せ/申込み先：

スリーエーネットワーク講座係

102-0083 東京都千代田区麹町 3-4 トラスティ麹町ビル 2F

TEL: 03-5275-2722 FAX: 03-5275-2729

E-mail: kouza@3anet.co.jp

お名前・ご所属・ご住所・お電話番号を明記してください。電話での申込みはお受けできませんので、FAX、E-mail、はがきにてお申込みください。

主催：スリーエーネットワーク

楽しく、わかりやすく、役に立つ初級の授業作り
ー『イラスト満載! 日本語教師のための活動
アイデアブック』を使ってー

講師：小山悟(九州大学 留学生センター准教授)

名古屋

日時：4月9日(土) 13:30-15:30

(13:00 受付開始)

会場：名古屋国際センター 5階 第一会議室

(名古屋市中村区那古野 1-47-1)

定員：80名

参加費：東海日本語ネットワーク会員 無料
一般 500円

申込み：不要(当日先着順受付。定員になり次第締め切ります。)

問合せ：名古屋国際センター交流協力課

TEL: 052-581-5689

FAX: 052-581-5629

主催：東海日本語ネットワーク、名古屋国際センター

札幌

日時：5月14日(土) 14:00-16:00

(受付開始 13:30)

会場：TKP 札幌ビジネスセンター赤れんが前「はまなす」(札幌市中央区北4条西 6-1 毎日札幌会館 5階)

定員：80名(先着順。定員になり次第締め切ります。)

参加費：無料

問合せ/申込み先：

スリーエーネットワーク講座係

102-0083 東京都千代田区麹町 3-4 トラスティ麹町ビル 2F

TEL: 03-5275-2722 FAX: 03-5275-2729

E-mail: kouza@3anet.co.jp

お名前・ご所属・ご住所・お電話番号を明記してください。電話での申込みはお受けできませんので、FAX、E-mail、はがきにてお申込みください。

主催：スリーエーネットワーク

協力：北海道日本語教育ネットワーク

Information

お知らせ

世界の子どもをつなぐ感動の響き

和太鼓まつり

日時：3月19日(土) 10:30-16:00

会場：学校法人文化学園 大ホール
(渋谷区代々木 3-22-1)

第1部「和太鼓体験教室」10:30-13:00

バチの持ち方、姿勢、演奏の基本等

〔対象〕小学5年生～留学生・大学生

〔定員〕30名

〔参加費〕1,000円(昼食代を含む)

第2部「国際交流の集い」14:30-16:00

和太鼓についての講演とライブ

〔対象〕どなたでも参加できます

〔先着順〕300名

〔参加費〕無料

申込み締め切り：3月12日(土)ただし定員になり次第締め切ります。

問合せ/申込み先：

NPO 法人国際日本語コミュニケーション
研究所

TEL: 03-5333-6385 FAX: 03-5333-6386

E-mail: wjci@nifty.com

URL: <http://www.wjci-nihongo.org/>主催：NPO 法人国際日本語コミュニケーション
研究所

協賛：スリーエーネットワーク

Ja-Net

No. 76

季刊ジャネット

スリーエーネットワークという社名は、アジア (Asia)、アフリカ (Africa)、ラテン・アメリカ (Latin America) の三つの地域をネットワークでつなぎ、相互理解と友好促進を図ろうという趣旨をシンボライズしています。

2016年1月25日発行

●発行人 藤崎政子

●発行所 (株)スリーエーネットワーク

Ja-Net 編集室

〒102-0083 東京都千代田区麹町 3-4

トラスティ麹町ビル 2F

TEL: 03-5275-2722 FAX: 03-5275-2729

E-mail: sales@3anet.co.jp

<http://www.3anet.co.jp/>

●印刷 日本印刷(株)

© 2016 by 3A Corporation Printed in Japan

(禁無断転載)

●『Ja-Net』をご希望の方はお名前・ご住所・ご所属を編集室までお知らせください。無料でお送りいたします。『Ja-Net』第77号は2016年4月25日発行です。